

2021年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 トリノス
 代表者・役職名 氏名 事務員 宮崎 澄人

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

移転に伴う住環境の整備(給湯器設置)

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

私たちのホームは、平成28年4月に東京にある日野の地で事業を始めることとなりました。当時から、児童養護施設を年齢超過により退去した若者や、高校年齢程度で保護された未就学の若者の行き場について問題提起がなされていました。私たちの法人には児童養護施設が2か所あり、ある程度のノウハウもあったため、法人としてこの問題に取り組むべきとの考えがあり開所するに至りました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

利用者が清潔感の保持や疲労回復から浴槽にお湯をはると残湯量が一気に減り、他の利用者がお湯を使用できない、入浴中に残湯量がゼロになり入っている最中に水やぬるま湯に変わってしまうということが起こるようになり、利用者たちも入浴の際に残湯量を気にしないといけない状況となってしまいました。

コロナ禍において外出などもしくい状況で日々仕事や学校を継続して行っている利用者たちがホーム内で気軽に行えるリフレッシュ方法としても入浴は大切であり必要です。勿論生活を送っていく上で清潔感を保つ意味でも入浴は非常に重要な要素になってきます。そのため全利用者が気兼ねなく浴槽利用も含めた入浴を行えるようにする必要があると思っております。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

平成28年4月に日野に開設を致しましたトリノスは令和元年東日本台風をきっかけに利用者たちの安心安全のために令和2年11月に移転を行いました。幸いにも同市内の高台に移転をすることが出来ましたが一般住宅のオール電化であり現在使用している電気給湯器では家事等で使用するお湯や入浴時に使用するお湯の量が足りず入浴中にぬるま湯に変わってしまうなどの問題が起きガス給湯器の設置をしたいと考えております。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

以前までは利用者に湯船につかれない、任意のタイミングで入浴出来ないなど、不便を強いる状態でしたが、給湯器の設置によって、利用者が自分のタイミングで入浴や、気兼ねなく湯船につかるなど出来るようになりました。利用者のほとんどが、社会経験も少ない中で毎日仕事や学校に通わなければならない状況にあります。そのため少なからずストレスを溜めていること思います。そのような中で今回の事業を実施したことにより少しでもホームとして毎日のストレスの軽減の場を提供することができるようになり、大変嬉しく思っております。入浴は毎日の習慣であるため、その習慣が快適なものとなることで今後も彼らが継続して就労就学し続ける活力になるのではないかと感じております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

新型コロナウィルスの影響により利用者の就労先候補の選択肢としてあがりやすい飲食業界やアパレル業界が大打撃を受け、仕事に就くことや仕事を継続していくことが社会的に厳しい状況になっており、また良くなる見通しも未だたっていません。どのような状況であってもホームとして安心安全で気兼ねなく設備を使用できる生活空間を提供し続けることが大切だと考えており、そうした中で利用者たちがよりよい自立を目指すことのできる施設でありたいと思っております。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。

